

12月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2010. 12. No.33

生きていく力

～英語・パソコン・農作業～



アメリカ人のブライアン先生



真剣な顔で授業を聞く子どもたち



ノートを取る顔も真剣そのもの

皆さんこんにちは。12月に入り、1年で最も寒い時期がやってきました。毎日の朝晩の冷え込みに、子どもたちも厚手の上着を羽織っての生活となっています。

さて今回のドリーム通信では、12月より開始したアメリカ人教師ブライアン先生による英語授業と、園の事務員メーンによるパソコン授業の様子についてご紹介します。

英語授業

現在のカンボジアの就職状況、また、子どもたちが就職するにあたって今後何が必要となってくるのかを考えた時、一番最初に思いついたのが、ネイティブの先生による英語の授業でした。近年カンボジアには、他国から多くの企業が入ってきており、特にプノンペンでは英語を使いこなせる人が数多く働いています。その中で働いていくためには、英語はおそらく必須条件となっていくでしょう。そこで、園では以前から英語に力を入れたいと考えていたのですが、クラコーという田舎では英語のネイティブの先生というのはなかなか見つかりませんでした。

ところが今年10月、アメリカからボランティアでカンボジアに入り、園の近くのシアヌーク高校で英語を教え始めたブライアン先生と出会い、その思いは現実へと変わりました。彼はなんと、園での授業もボランティアで行ってくれています。ここカンボジアでは、通常、英語の授業は小学5年生から始まりますが、ブライアン先生の授業は小学1年生から高校1年生まで全員受けています。小学1年生にはアルファベットの書き方や発音を教え、学年が高くなるほど難易度は上がります。会話と発音を中心とした授業で、子どもたちは難しいながらも、繰り返し繰り返し、練習しています。授業中は、先生の顔、特に口元をじっと見つめ、その表情は真剣そのものです。

子どもたちが生きた英語に触れる機会を増やすことで、将来就職先を勝ち取れるよう、またそれぞれの夢が広がっていくようにこれからも応援し続けたいと思います。



事務員による指導のもと行うパソコン教室



ゲームをしながら、タイピングの練習



今日のご飯に使う食材



空いた時間に水遣り

パソコン教室

やはりここカンボジアにおいても、近年は、書類や表計算などのパソコンのスキルが就職する上では必要となっています。そこで、かねてより計画していたパソコン教室を、今月ようやく開始することが出来ました。このパソコン教室実施に深く賛同して下さった里親様から、パソコン8台とプリンター1台を寄付して頂きました。

従来の補習や農作業の時間を削ることなくパソコン教室を実施しようと考えたため、子どもたちにとっては、自由時間、つまりは遊ぶ時間を削っての授業となったのですが、毎日の自由時間(1時間)を削ってでも、ぜひ授業に参加したいと毎日行列ができています。また、小さい子どもたちも興味津々で、パソコンの画面に見入っています。

現在は始めたばかりなので、ゲーム感覚で文字を入力し、タイピングの基礎を行っていますが、将来子どもたちがワードやエクセルなどを使いこなせるようになり、インターネットを使って様々な情報を自ら進んで取り入れることが出来るようになることが、このパソコン教室のゴールです。

農作業

園では通常週に4回、農作業を行っていますが、それ以外の時間にも 保母担当が主体となり、子どもたちと一緒に毎日空いた時間を見つけては農作業を行ってくれています。そのおかげで、園内農園では多くの野菜が育ち、いつもきれいな緑色に輝いています。

「園で食べるものは、園で育てること」を目標に始めた農作業ですが、現在着々と目標達成に向けて進行しています。子どもたちにとっても、自分で育てた野菜を食べるのはまた格別なようで、「これ、僕たちが作ったんだよ!」と言いながら、いつもおいしそうに食べています。

将来 農業に関わっていく事を目標にしている子どもは、現在5名います。来年には中学を卒業し、夢に向かって次のステップを進んでいく子どもも2名います。また、通常の農作業の時間には、薪割りや畝作り、野菜の種蒔きなど、日常生活に必要な作業を取り入れています。

子どもたちがそれぞれの夢を叶えるためのサポートをおこなっていくことが最大の目的ですが、夢が叶わなかったり、諸々の事情で就職出来なかったり、家族を養うために夢とは別の仕事に就かなければならない時が来るやかもかもしれません。そんな時に困らぬ様、子どもたちが園を出て一人で生きていける力、家族を養う力を身に付けていくことが必要であると思います。